

ユーロ圏金融政策（2025年10月）

市場予想通り3会合連続で政策金利を据え置き

2025年10月31日

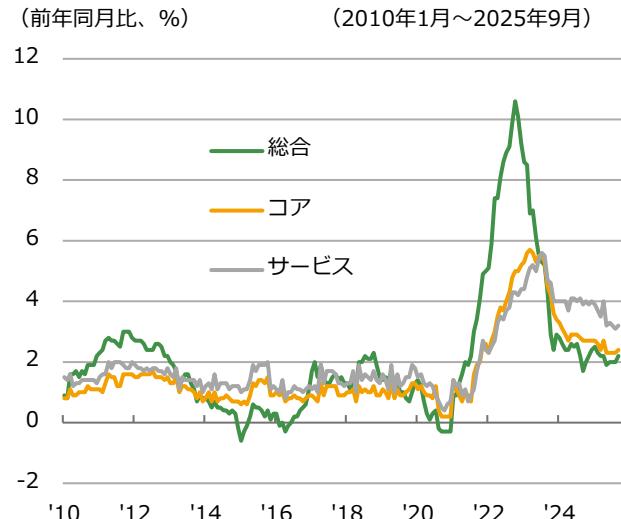
景気・物価とも安定しており、当面の金融政策は様子見姿勢に

ECB（欧州中央銀行）は10月29・30日（現地）の理事会で、現在の主たる政策金利である中銀預資金利（銀行がECBに所要準備を超えて預け入れる資金の金利）を市場予想通り2%に据え置きました。昨年6月に利下げを開始し、9月以降は7会合連続で利下げを実施した後、3会合連続での据え置きです。

前回9月の理事会後の声明文では、経済成長に係るリスクは「よりバランスが取れている」とし、それまでの「下向き」から判断を改めました。今回はさらに、堅調な労働市場、民間部門の堅固なバランスシート、ECBによる過去の利下げの効果を列挙し、幾つかの下振れリスクの軽減を指摘しました。企業によるIT投資やAI活用の進展も取り上げており、景気見通しが一段と前進している様子がうかがえます。

インフレについては、基調的なインフレに係る指標は2%の目標と整合的であるとの認識を示した上で、生産性の向上や賃金の鈍化により労働コストはさらに抑制されそうなこと、長期のインフレ期待に係るほとんどの指標は引き続き2%近辺に位置していることを指摘し、インフレ目標達成への自信を滲ませています。インフレについてのリスクは両論併記で、データに基づき会合ごとに適切な金融政策を決定するの方針を強調していますが、中銀預資金利が中立と目される水準に達している中で現実のインフレ率がほぼ2%に収れんしていることから、ラガルドECB総裁は「我々は良い位置にある」と繰り返しました。当面の金融政策は様子見姿勢が続くと想定します。

ユーロ圏の消費者物価指数



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列

(出所) 欧州統計局

ユーロ圏の金利と為替



※中銀預資金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指標・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。